



味鏡山天永寺  
護国院

真言宗 智山派  
味鏡山天永寺  
**護国院**





# 奈良時代の高僧「行基」ゆかりの寺

護国院は「味鏡山」と号し、天平年間(七二九〜七四九)に僧「行基」が創建した真言宗の寺です。当時は「薬師寺」とも呼ばれていました。天歴二年(八二二)庄内川の大洪水にあい衰微し、天永二年(一一一一)西弥上人により再興され今の寺名、天永寺護国院となりました。



▲淡墨桜

山号 味鏡山  
寺号 天永寺  
院号 護国院

石室寺有馬河天皇土御願西弥上人土草創天永寺  
中開基也蓋東宮之末社六所明神鎮鎮之靈嶋細  
瑠界之本王十二願王降化之梵場也然則金銀鑿玉  
蓮含寶花蓬萊嶋之味鏡山雅異于他所有神風  
無降所祀佛日是同有政行以神殿之月前如先惠  
揚秀佛蓮之花水重高愛長命肥景若若形後  
蘭之華前何出粒神粉高時寺破威甚明皇之幸  
龍水治深流波煩悩出垢王想是明神利物之方

修造之功後復違不尊利物之者有以是故伊予等欲  
捧于奉如儀於西于勸于捨那物於十寸遂于造草  
於如意段于勸行於不違其望(中)道俗皆男男也  
不揮多少其取難入於分奉加給信願物極深清  
滿治東邊土長大山寺那合諸檀之助力一寺之造  
興即如叶叶供養也之禮果浴一身之有本祀達之  
三是修明八世之值大見修善人幸福此惠者如福  
先言在可今何則月於然者明既吾男願善善也現  
世六親和合而能了深邊福尾屋之七室後主十祀開流  
而跨功勳志尊之海善重又文化奉解安樂意  
壹於分奉出設位政月開之儀也於十秋之修平  
八至十三年三月五日集會于外集會一月月修起  
進心國之收居也

文開十二天永寺護國院  
天永寺  
天白

▲縁起由来



▲二十五菩薩像



▲内庭園



▲鐘樓堂



▲みかがみじょうそん



▲境内





# 本堂 (薬師堂)

平永九年（一五八一年）に建立、薬師如来を本尊として祀り、日光・月光菩薩、不動明王、十二神将を祀る。外陣には格天井に彩画を描く。



▲本尊瑠璃光薬師如来像



▲薬師堂内陣



▲大日大聖不動明王像



▲制吒迦童子像



▲矜羯羅童子像



▲月光菩薩像



▲十二神将像



▲日光菩薩像



# 金堂

大師堂を平成四年に再建し、大日如来・弘法大師・興教大師・観音二十五菩薩を祀り、金堂と称す。



▲金堂内陣



▲大日如来像（金胎两部）



▲興教大師像



▲弘法大師像



▲二十五菩薩像

# 八角位牌・納骨堂

阿弥陀如来を祀り、歴代住職檀家の位牌・遺骨を納める。



▲阿弥陀如来像



▲納骨堂4F

# 観音堂

味鏡岩屋堂に観音堂があり護国院に移築し、昭和五十八年に再建、十一面観音菩薩を祀る。



▲十一面観音菩薩像



鰯口  
元禄三年唐午（一六九〇）の銘があり、旧観音堂に保存



鬼瓦  
犬山城役瓦陶作者、瓦師藤原重久の手による瓦



▲観音堂内陣





仁王尊像(吡形)



古鏡(四獸鏡)・鉄鉾  
元文三年(一七三九年)に  
味鏡岩屋堂古墳より出土  
(準国宝)

白山藪古墳より出土された土器



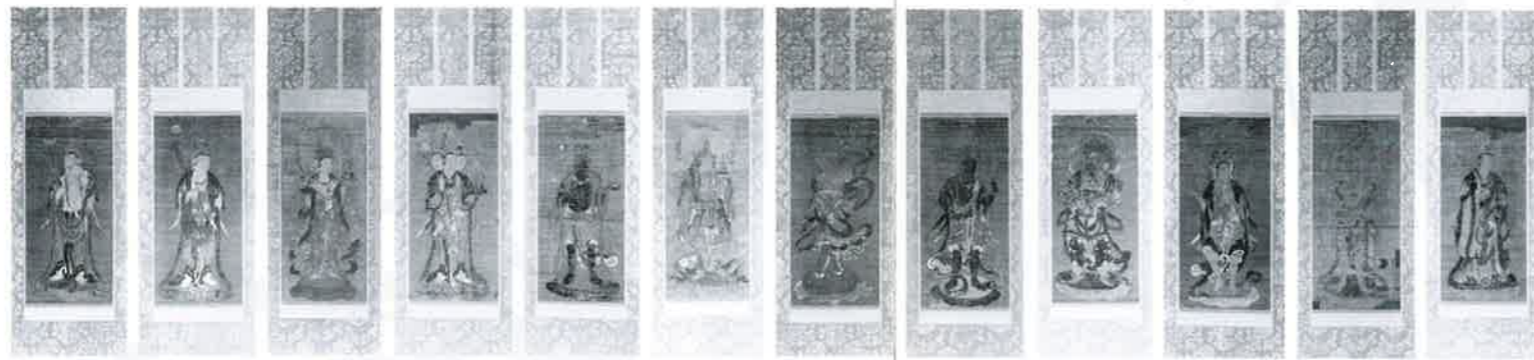
▲埴輪の一部



▲須恵器



▲石棺



▲十二天画像



大般若経  
暦応二年(三三八年)  
九月、左兵衛督であつ  
た足利直義が寄進し  
宋板で建久・応安・  
康久等に補写した  
もの



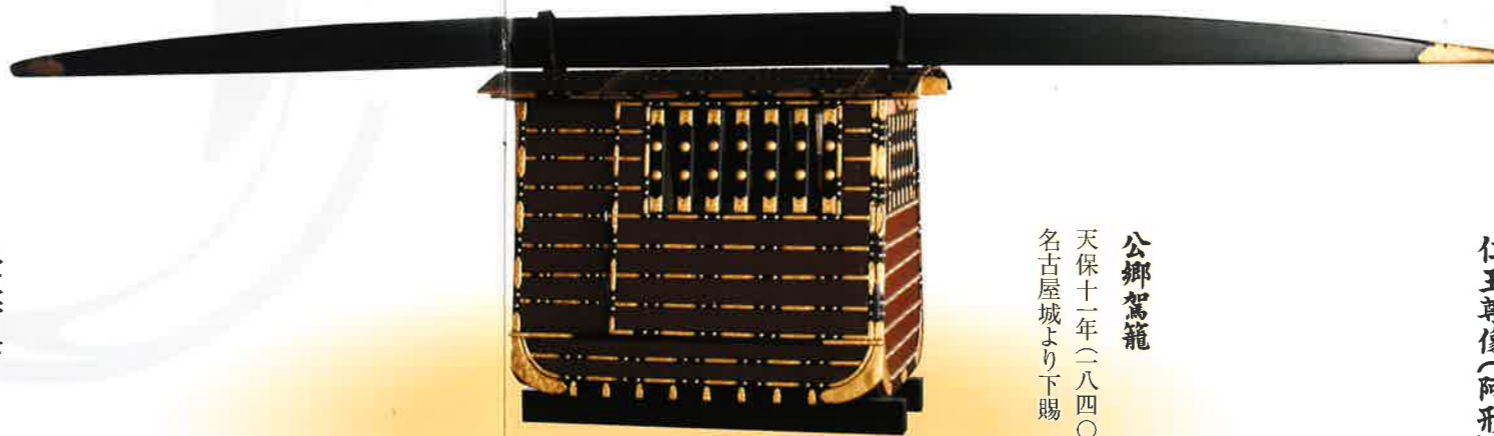
絹本着色仏眼  
曼荼羅圖  
室町時代  
(市重要文化財)



絹本着色千手観音  
二十八部衆像  
鎌倉時代  
(国重要文化財)



絹本着色尊勝種子  
曼荼羅圖  
室町時代  
(市重要文化財)



公郷駕籠  
天保十二年(八四〇年)  
名古屋城より下賜

仁王尊像(阿形)



**【護国院概要】**

當寺の開創は、聖武天皇の御宇、行基菩薩諸国行脚の砌に来錫され民利を計られた時、天平三年の春(730年)より七堂伽藍を建立し、本尊を薬師如来とされ寺号を薬師寺と号した。

天曆二年(948年)八月大洪水にあい、堂塔は流失し、本尊のみ草庵に安置された。

鳥羽天皇の御宇、天永二年(1111年)西弥(さいに)上人が夢のおつげにより天皇に奏上、勅願を受け安食・柏井の両郷を賜り、七堂伽藍・十二坊を建立、天皇より天永寺護国院の御宸筆を賜り、改称し隆盛を極めた。その後三百五十年過ぎ戦国時代となり寺領は失い、さらに文明十一年(1479年)大火災にあい、堂塔ごとごとく焼失し、衰微した。

天正九年(1581年)荒廢せる堂宇再建され徳川になって名古屋城の真鬼門に當っているため徳川安泰の御願所とされ熱田の宮、神宮寺とも呼称され熱田神宮とも深い関係があった。

その後も幾度か天災にあい、昭和五年に本堂・大師堂の大修理。

昭和五十三年に観音堂、昭和五十八年に鐘樓堂。

平成四年には大師堂に変わって金堂、位牌・納骨堂。

平成十一年には宝物庫、庫裡が建立され今日に至る。

天永寺  
味鏡川



江戸時代尾張名所図繪より



2004.3撮影

**年中行事**

【二月】修正会

元旦



【二月】節分会 三日又は四日

七難即滅七福即生を祈願し厄払いを行う。



【二月】ねはん会

十五日

【三月】春季彼岸会 二十日

お中日に彼岸会を行う。



【四月】花まつり

八日

お釈迦様のご生誕をお祝いしコンサートを行う



【四月】弘法大師御正當

旧の三月二十一日に  
ご遺徳を偲び御影供  
法要を行う

【七月】盆(新) 十三〜十五日

【八月】盆(旧) 十三〜十五日

精霊送り 十五日

盆施餓鬼会 十六日

十七日

地藏盆会 二十四日

【九月】秋季彼岸会 二十日

お中日に彼岸会を行う。

【十一月】本尊供(天祭) 八日



【十二月】報恩講 十二日



本尊薬師如来 詠歌（味鏡山護国院）

此の里の人の心を

池水になしてぞ宿る

夜半の月影

「南無瑠璃光如来薬師仏」



- 尾張西國観世音札所 第十二番霊場
- 名古屋廿一大師札所 第九番霊場
- 東海三十六不動尊札所 第六番霊場



味鏡山天永寺  
護国院

名古屋市北区  
楠味鏡2丁目732番地  
TEL/052-901-0723  
FAX/052-901-1176